

発行者

岩瀬日本大学
高等学校
ソーシャルメディア部
永井 光輝

被災地に寄り添う

水戸の復興支援に献身

災害ボランティアセンター

猛威を振るった台風19号から約3か月。昨年11月、被災地区の復旧に尽力した多くのボランティアの窓口となった水戸市災害ボランティアセンターを訪ねた。

水戸市社会福祉協議会は、台風19号の被災直後の10月14日より、被害の大きかつ



被災地の現状と支援活動について話す塙さん



た藤井町や岩根町に隣接する、水戸市渡里町の老人福祉センター「長者山荘」を「水戸市災害ボランティアセンター」を拠点として、多くのボランティアとともに、浸水等で被害を受けた住居の片付けや泥出しを行ってきた。ボランティア相談窓口で被災者支援の中心となり活動してきた地域福祉課課長の塙行弘さんに話を聞いた。

主な活動は、自然災害により被災した地域の復旧・復興を行うことだ。今回の災害にもいち早く現地に駆けつけた。他にも交通整備を手伝ったり、台風などで流れてきた家具などを



マッチングを行う部屋

災害ボランティアに参加するには、被災した地元自治体の社会福祉協議会（社協）が中心となつてボランティアセンターが設置されるので、事前にネットなどで情報収集しておく。

今回訪問した水戸市災害ボランティアセンターでは、塙さんをはじめ、社協の職員が被災者からの要望をとりまとめ、異なるニーズを整理し、集

ボランティア力になるには

ので、加入しておきたい。現地ではリーダーを中心に活動し、がれき撤去作業などは危険と隣り合わせなので、安全と衛生面に気を付ける。ヘルメットに、底の厚い長靴、長袖長ズボン、ゴム手袋やゴーグル、防じんマスクなど装備を万全にしたい。道具はセンターで準備されているが、自前で用意できればなおいい。

汚泥には感染症の危険性もあるため、センター帰着後、十分に消毒を施すスペースもあった。

一か所にまとめたりした。これまでも、昭和61年と平成10年に3回も大きな水害が起こったが、今回の豪雨災害は予想を大きく上回ったという。

被災者の目線に立つて

ボランティア活動をする上で、塙さんは「ごみやがれきに見えるものでも、その住人にとっては、これまでとても大切にしてきた思い出の詰まった物であるこ

とを忘れないで」と、被災者の気持ちを尊重し、相手の立場に立って活動してほしいと訴えた。

そのような多忙な日々の中で嬉しいこともある。「被災者やボランティアの方々から感謝のお手紙や心温まる言葉をもらい、報われた気持ちになる。させていたたく、という気持ちが大変」。ボランティア活動が、街を見守り、人々の心の支えになっていっているのも事実だ。（永井）



モップやバケツも用意

12月5日をもって、水戸市災害ボランティアセンターは閉所し、翌6日から水戸市社会福祉協議会「被災者支援ボランティア相談窓口」を設置することになった。

残された台風の爪痕 水戸市内の被災地をめぐる

ボランティアセンターを後にした私は、顧問の時杉先生の車で被災地を訪れた。

冠水した国道123号線を城里町方面に向かつて走る。ガードレールは無残にも折れ曲がっていて、改めて水害の恐ろしさを感じた。先月復旧した常磐道水戸北

スマートインターチェンジ（IC）は、この取材中はまだ閉鎖中だった。新聞やニュースの映像によれば、この水戸北IC付近は約4m冠水していたという。

道路左側には「ホームセンター山新渡里店」の大きな看板が見える。通行止めの



ガードレールがぐにやりと曲がっている

看板の奥の駐車場はがれきの山と化していた。周辺のぬかるみのような泥だらけの道を、滑らないように強く踏み分けて周辺を巡ると、おそらく店舗の外にあつたであろう「インター



水没した水戸北IC

や園芸用品などの商品が数十m流されて散乱していた。山新のホームペー



通行止の看板で封鎖



付近には浸水した店の商品が散乱していた



11月16日、17日、23日、24日の4日間、偕楽園四季の原広場において「水戸のラーメンまつり」が開催された。当日はあいにくの大雨だったが、足下の悪い中、人気の

ラーメンを求めて多数の人々が来場した。

徳川光圀がラーメンを食べていたという記録があることにちなんで、全国から24店舗の有名ラー

全国から有名店が水戸に集結 ラーメンまつりで売上金を寄付

メン店が集結し、今年で第5回を数える。気になるラーメン店に足を運んでみた。ラーメンの湯気がたちのぼり、

この他にもB級グルメや「みとちゃん朝市」、水戸ご当地アイドル（仮）などのステージイベントも充実している。今回の



魚介風味のスープが絶品

売り上げの一部は被災地に寄付されることだ。毎年恒例となっている水戸のラーメンまつり。来年はどんなラーメン店が来るのか期待が高まる。（永井）

編集後記

今回の台風19号による河川の氾濫で、県内の多くの地域で浸水被害が発生した。10市町の292棟が全壊、19市町の2397棟が半壊した。避難所に身を寄せた人たちは、29市町村で2万1832人に上った。

昨年末には災害ボランティアセンターも閉鎖し、水戸市社会福祉協議会も通常業務に戻った。しかし未だ自宅に戻れない人や、近くのホームセンターは休業を余儀なくされている。また、政府よりも素早く行動し、被害を最小限に抑えようとするボランティアの献身的な行動がほとんど報道されないのは遺憾である。

困っている人々に手を差し伸べるヒーローのような存在が今後も増えることを心から願い、私たちは新聞を通して今後もスポットを当てていきたい。（永井）